

# 竜西だより

2月号

2017年2月1日  
竜王西小学校  
児童数:296名  
学級数:14学級



校長 富長 宗生

学校教育スローガン

学びきらきら 心うきうき 行いどんどん



## 心の鬼退治を

「鬼は外。福は内。」



まもなく2月3日、節分を迎えます。

節分とは文字通り“季節を分ける”の意味で、冬と春の季節の分かれ目が節分の日です。だから翌日の2月4日が立春となり、暦の上ではここから春になります。

私たち日本人は春を念う(おもう)気持ちが強いんだな、そう強く感じます。げんにお正月から「新春」や「頒春」と、早くも春を祝いはじめます。また、節分は本来一年に4回あり、立春、立夏、立秋、立冬の前日をすべて「節分」と呼ぶのに、特に立春の前日だけを行事として祝います。(なんとも私たちは、冬のあいだじゅう春に焦がれ、事あるごとに春の兆しを見つけては祝っているように思います。)

春の節分に豆まきをして鬼をはらう儀式は、もともとは大晦日に行われていた「鬼やらい」の名残だそうです。それは、「鬼は陰の世界の象徴だから、つまり優勢な陰を追い払い、兆しはじめた陽を応援することでいち早く春を招こうとする」式事だったそうです。

いずれにしても寒い日はまだまだ当分は続きます。皆様、どうかお体をご自愛ください。

でも、とは言うものの本格的な春の到来は、“兆し”を祝うごとに確実に近づいてはいます。「三寒四温」という言葉が実にぴったりと当てはまる時候となってまいりました。

ところで、当節の節分では、「鬼は外。福は内。」と言いながら賑やかに豆まきをしますが、その理由はというと、「病気や災難などの悪い鬼を追い出して、すがすがしい春を迎えるため」であります。

では、迎えた春には何が待ち構えているのでしょうか。それは、上級学年への進級や中学校への入学といった子どもの確かな「成長のあかし」とその喜びが、そこにあります。

3学期は、上学年に向けての当該学年の締めくくりという大切な学期です。学校としましても、今まで以上に「心の鬼退治」を心がけさせ、怠け心や飽きっぽさに負けないよう支援し、反対に、当たり前前ことを当たり前前にできる習慣が子ども達に「福德」として身に付くよう根気強く指導し、上学年への確かな一歩にしていきたいと考えています。

“人間は習わしの生き物だ”とシェイクスピアは言っています。確かに性格を変えることは難しい。でも、その人の行動は変えることができます。性格とはつまるところ行動の集合体ともいえます。行動が変われば、その人の性格や人格さえも変わります。メジャーリーグでも大活躍した名選手、松井秀喜さんの座右の銘は、まさにこのことをあらわした言葉です。



**「心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる。」**



「あいさつをする」「掃除にしっかり取り組む」「自分の係活動をカッチリやる」などの学校生活の細かな指導が、3学期を迎え確実に実を結びつつあります。家庭学習の習慣化も、これまでの“がんばり週間”の取組を通して、当たり前化しつつあります。今後とも、ご家庭での躰(しつけ)と学校での指導との強固な連携を、一層よろしくお願ひいたします。

# 「躰」が「おしつけ」に？

「しつける」という言葉は「押しつけ」をイメージするようであまり好きではないという方もいます。でも、「しつけ」は漢字で「躰=身を美しく」と書きます。これは、人間としてコミュニケーションを図る上で、最も大切なことの一つといえます。

以前、ある臨床心理士の方に教えていただいたことを紹介します。

## ◆しつけの面で、保護者への三か条

1. イライラしていないか
2. せっかちにしていないか
3. くどくど言っていないか

もし気持ちの上で、このような状態があったならば、しつけママでなく、上に「お」をつけた、おしつけママになってしまいますよ、とのことでした。

また、あるアンケート結果によると、親は97%が「子どもをほめている」と答えたのに対し、「ほめられたことがある」と答えた子どもはたった7%だったとのことでした。

親などの保護者が皆で、まず子どもをほめ一緒に喜ぶことがしつけにとって重要で、このことが保障されている状況の中でこそ、きちんとしたしつけが身につくと、伺ったことがあります。

## ◆「かわいくば、五つ数えて三つほめ、二つ叱って良き人となせ。」

これは二宮尊徳の有名な言葉ですが、怒りたくなったら五つ数えるくらいの間をおいた後に、長所を三つあげてほめてから二つだけ叱るようにしなさいという教育法を説いた言葉です。

## 「食」は「人に良い」と書く

### 本校給食感謝週間(1/20~1/26) 終了

あるサイトに掲載されていた「キレル子どもと食生活」に書かれた記述の中に、このタイトルの表現がありました。「参考に」と思いここにご紹介します。

## 2月行事



- 2日(木) 移動図書館
- 3日(金) {スキー教室予備日}
- 6日(月) 5年フローティングスクール
- 7日(火) 5年フローティングスクール  
4年ひびきあい活動  
お話タイム
- 8日(水) あいさつ運動 すこやかタイム
- 10日(金) きらうきどんの日
- 11日(土) <建国記念日>
- 12日(日) 町埋蔵文化財展示会(本校体育館)
- 13日(月) クラブ 校内版画展(～24日)
- 14日(火) お話タイム すこやかタイム  
3年工事現場見学  
新入生体験入学・入学説明会
- 15日(水) なかまタイム
- 16日(木) たてわり遊び
- 17日(金) 授業参観(5校時) 食育の日  
「こんにちは教育長です」懇談会  
6年性教育(助産師さんの授業)
- 20日(月) 2年西小郵便局活動(～24日)
- 21日(火) 暗唱ラリー すこやかタイム
- 23日(木) わくわく交流
- 24日(金) 6年ひびきあい活動
- 27日(月) 委員会活動
- 28日(火) お話タイム すこやかタイム

※毎週火・金曜日はPTAによる校区内パトロール

### <キレル子どもと食生活>

前橋明氏(早稲田大学教授 医学博士 子どもの健康教育を研究)

キレル子どもと食生活の関係について前橋明はつぎのように述べています。

キレル子、イライラする子、疲れやすい子、そういう子どもたちに共通した特徴なんですけれども、食生活が乱れているということですね。こうした子どもというのは、1日のスタートの朝食をとっていないということがあります。私の調査では、幼児の約15%が欠食しています。一方で、85%の子どもたちは、毎日朝ごはんを食べているかというそうではないようです。うちの状況を見ますと、朝うんちをしているのは2割程度しかいないんですね。食べても菓子パン程度の朝食のようです。それでは、うちの重さや体積といったものは作れないですから、排便にはなかなか至らないのです。

食事というのは栄養素の補給という点で、もちろん重要なんですけれども、家族のコミュニケーションを図る絶好の機会なんです。ですから、心の栄養補給もしてくれるわけです。食という字は、「人に良い」と書きますよね。人を良くすることを育む貴重な機会なんです。

それから、食の場面でも、朝食をとらず、夜は一人で簡単な食事で済ます孤独な食事をしている「孤食」や、家族一人ひとりが自分の好きなものばかりを食べて、勝手な食事をする「個食」など。そういったものが子どもたちの心の居場所をなくして、ささいなことでもキレて心を乱す子どもを作り出しているのではないかなと思っています。